

～生きる力を育てる～

食育の大切さ 食の生産者に学ぶ

宇部市立黒石中学校 P T A

1 学校地域の概要

P T A 会 長 : 縄 田 和 光

学 校 長 : 本 池 純

生 徒 数 : 4 0 4 名

会 員 数 : 3 9 5 名

(家庭数 3 6 3 教職員数 3 2)

所 在 地 : 〒759-0206

宇部市大字東須恵 476-2

T E L 0 8 3 6 - 4 4 - 1 6 9 0

F A X 0 8 3 6 - 4 4 - 1 6 9 4

ホームページ : <http://www.ube-ygc.ed.jp/kij/>

E - m a i l : kij@ube-ygc.ed.jp



本校は宇部市の南西部に位置し、南は瀬戸内海に面し、九州の連山が眺望できる。厚東川下流域の干拓によってできた厚南平野は約 500ha あり、近年宅地造成が進み、人口急増地域にある。

厚南中学校の大規模校解消のため、平成元年 7 月、国道 190 号線の流川交差点から北へ約 1 km 入った小野田市との境界に近い厚南区黒石丘陵地に用地造成が始まり、平成 3 年 4 月に新設開校した。

周囲を緑に囲まれた静かな環境と、県下に誇れる斬新な校舎、施設設備、また隣接して黒石体育広場があり、教育環境としては非常に恵まれている。3 階からは、宇部興産大橋ごしに瀬戸内海も眺望できる。

本校は教育後援会をはじめ、地域の方々も大変協力的である。学校行事では、運動会への参加、文化祭では自由に観覧できるよう開放している。



2 校訓・学校教育

(1) 校訓

努力 礼節 友愛

(2) 学校教育目標

「21世紀を創造する生徒の育成」

人間尊重の精神を基盤とし、個性的で人間性豊かな生徒を育成する。心身共に健康でたくましい意思と実践力をもった生徒を育成し、生徒とともに活力に満ちた特色ある校風を樹立する。

◎目指す学校像

- ・生命尊重と思いやりあふれる学校
- ・安らぎと充実感あふれる学校
- ・地域に根ざし、活力あふれる学校

◎目指す生徒像

- ・何事にも責任をもち、全力を尽くす生徒 (努力)
- ・礼儀正しく、あいさつをよくする生徒 (礼節)
- ・思いやりのある、やさしい生徒 (友愛)

◎教育方針

- ・学校教育を生涯学習の一環としてとらえ、学習の基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、自ら学ぼうとする興味・関心・意欲・態度・能力の育成を図る。
- ・人間尊重の精神と生命の尊厳を基本に、豊かな人間性の育成に努めるとともに、社会的連帯感の高揚を図る。
- ・一人ひとりの能力・適性等に十分な配慮をもって、個々の生徒が持つ良さや可能性を見出し、その伸長を図るとともに、現実的・具体的な将来計画の確立を図る。



(3) 重点教育

◎学習指導の重点

互いに認め合い、学び合う「学びの共同体」づくりを全教科で実施し、すべての生徒の学びを保障することで、学力向上を目指す。

◎生徒指導の重点

全校指導体制、共感的理解による信頼関係の確立によって、基本的な生活習慣の育成に努め、いじめのない明るい学校づくりを目指す。

◎道徳教育の重点

自己をみつめる力と他を思いやる心を育てる指導の充実をはかり、感動体験を通して、豊かな心情を育む。

◎人権教育の重点

人間尊重を基盤とした学級づくりの推進と、人権感覚の豊かさを計画に基づいた指導によって深化充実を図る。

◎特別活動の重点

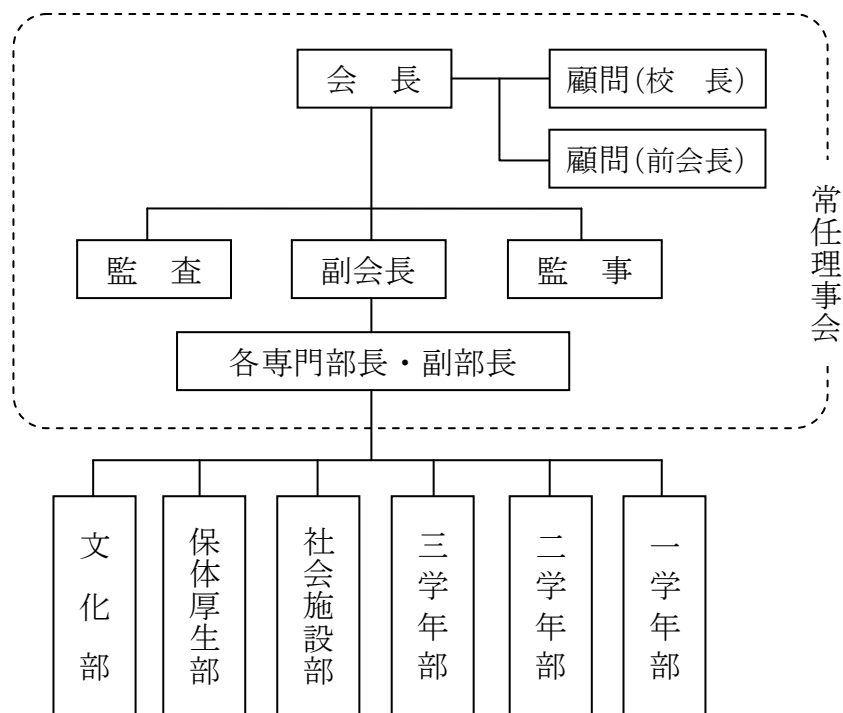
学級活動 … 生徒個々の能力、適性を把握し、生徒の自己実現のため、効果的な指導と援助をし、規律ある学級づくりを目的とする。

生徒会活動 … 黒石中学校の生徒としての自覚と誇りを持たせ、創意と自主的な活動をする。

学校行事 … 全校体制の中で、調和のとれた特色ある学校行事の展開で、積極的参加による連帯感、協調性、所属意識の醸成にのぞむ。

3 P T A組織・年間行事・役割分担

(1) 組織



(2) 年間行事

月	P T A行事	P T A関連行事	教育後援会行事
4月	評議員・学級評議員選出 P T A正副会長会 P T A監査 第1回P T A評議員会	市P連女性副会長会	後援会監査
5月	P T A総会 第1回理事会 第1回幹事会	市P連新旧常任理事会 広報紙作成のための研修会 市P連総会	
6月	休日参観日、学年・学級懇談会	厚南6校P T A連絡協議会 市P連常任理事会	教育後援会第1回理事会
9月	親子草刈り作業 運動会 第2回理事会	市P連常任理事会	
10月	文化祭・合唱コンクール	市P連女性副会長会 市P連理事会	
11月	第2回幹事会	市P連研修視察	
12月	校内ロードレース大会		教育後援会第2回理事会・ 常任理事会
1月		厚南6校P T A連絡協議会 市P連常任理事会	
2月	新年度評議員選出依頼 年度末P T A理事会・評議員会	厚南6校P T A連絡協議会 市P連理事会	新年度地区理事選出依頼
3月	新年度評議員選出		教育後援会地区理事選出

※年間数回にわたり、各専門部担当による親力UP（おやぢからアップ）セミナーを行う。

(3) 役割分担

会 長	P T A活動全体のとりまとめをする。必要に応じてP T A総会を開催する。校外P T Aの行事にも参加する。
顧 問	P T A活動に対して助言や補佐的な援助を行う。
副会長	会長とともにP T A活動をとりまとめ、校外P T Aの行事にも参加する。各専門部に対して具体的な助言をする。
監 事	P T A活動、行事の段取りを会長、副会長の指示のもと率先して行う。
監 査	P T A会計、教育後援会会計を監査し、P T A総会にて報告する。
各 学 年 部	学級懇談会の司会進行、年3回のあいさつ運動の割り当てと実施、運動会・文化祭の販売や整備の担当。
社会施設部	校内で保護者会、文化祭時などに廃品回収の担当。運動会の駐車場係。
保体厚生部	運動会のジュース販売等のバザー、文化祭の食事バザー担当。
文 化 部	P T A新聞の発行、運動会の警備、文化祭の手伝い。



5月のP T A総会で承認を受けて活動を開始する。例年、役員選出においては試行錯誤を繰り返しているが、会長・副会長においては年度末にあらかじめ推薦・立候補を募り、それを参考にして選出している。各専門部の部長・副部長を同じく年度末に選出しておくこと、新学期からスムーズに役員選出ができる。年度初め、年度末だけでなく、行事の前には常任理事会をもつことにより、準備等の確認、行事後には反省を含めて色々な案や改善点を話し合い決定していく。常任理事のメールアドレスは、会長・副会長に知らせてあるため、緊急な報告や会議を開くに至らない内容の事案は時間を簡略し、意思確認できる。

また、本校では、各専門部の他に「Pメンズクラブ」として父親のみが自由に入会できるP T A活動がある。学校行事では父親ならではの本领が発揮されている。



4 研究主題

地域の食の生産者に生産、管理などを学び、いのちを支えてくれているすべてのものに
 気づき、感謝の気持ちと食育の大切さを学ぶ。子ども達の生きる力を育むことにつなげる。

子どもの生きる力の育成のために食育の大切さを周知して、「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、また、今年度より「マイはし・マイスプーン」に取り組んでいる。その活動をより充実したものにするために、体験学習として宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会と連携し、詳しい情報を提供していただき、研修を企画した。研修により宇部市で全国的にも先進的に取り組みがされている地産地消の生産・流通を学び、食の生産者から直接話を聞き、研究主題である“食育の大切さ”を保護者から子ども達に伝えられればと思う。

本校PTAで年間数回開催されている「親力UPセミナー」は、保護者間の交流もふまえながら、親の教育力をのばす目的で行われている講座だが、今回食育を学ぶ研修もその一環とする。

また先立っては、同じく親力UPセミナーの1つとして、給食試食会が行われたが、これは、日頃、子ども達が学校で食している給食と同じメニューを保護者も同じ様に試食するという企画である。実際に調理や栄養指導にあたられている講師に直にお話を聞きながら、食について日頃の子ども達とは違う目線で給食を試食し、家庭でも改めて考える良い機会となる。

5 活動内容

(1) 校内における食や健康に関する学習

◎学校保健委員会

議 題 「思いやりの心をもち、健康でたくましい生徒の育成を目指して」
 講 演 「流行の兆しをみせる新型インフルエンザの対応について」
 講 師 山口県宇部環境保健所 主幹 岩岡由美子 様
 指導助言 学校医 中村俊彦 先生

学校からは校長をはじめ、保健主任、給食主任他、生徒代表として保体委員、PTAからは保体厚生部をはじめとするPTA役員が参加する。ここでは議題に沿っての講演の後、生徒の健康状態や給食関係の報告などがある。定期健診の身長・体重の数値からでも、食の状態を推察することができる。最近ではまれに肥満の指数が高い生徒がいるので、運動や食事で改善できればということである。

給食に関しては、1年生において若干給食の残量が多いようである。月に1度、宇部市厚南学校給食共同調理場（厚南小、厚南中、黒石中の給食を担当）から「給食だより」が発行されており、給食の食材についての情報やその月の食に関する行事、栄養素についての解説がわかりやすく記されている。



(2) 親力UPセミナー

年間数回の講座を開催し、その都度保護者へ案内を出して参加を募る。

各講座の担当は、各専門部で受け持つが、話し合いによって合同で行う場合もある。内容は様々で、外部から講師を招いたり、保護者間の懇談という形のものもある。今年度は、5回のセミナーがあり、食に関して学ぶ場を設ける目的で1回目を給食試食会、3回目を菓膳料理の講習、4回目を食の研修視察とした。

第1回 給食試食会 6月19日(金)

【献立】
 ご飯
 豆腐のすまし汁
 ブロッコリーの塩ゆで
 豚肉のレモン醤油煮
 牛乳・ゼリー



厚南学校給食調理場より栄養士の松中恵子先生をお招きして、食に関する講話のあと、配膳をし、学校から先生2人も参加されて給食の試食をした。6月19日は全国的にも“食育の日”ということで、この日の献立の材料には、山口県産の食材が使用されていた。毎月19日には県産メニューとして山口県産の材料を色々工夫して給食に出されている。素材の味の違いが伝わるのか、生徒達にも大変好評である。

アンケートの結果		
大人の好きだったメニュー	子どもの好きなメニュー	少数意見
1位 鯨の竜田揚げ	1位 カレーライス	・さばのみそ煮
2位 カレーライス	2位 フルーツポンチ	・みつ豆
3位 うどん	3位 チキンチキンごぼう	・大学いも

試食会の意見

- ・大変おいしかった。
- ・子ども達に感謝して食べるよう伝えたい。
- ・ブロッコリーに甘味を感じた。
- ・献立表に込められた思いを受け止めて、家で摂る食品も気をつけたい。
- ・栄養士さんのご苦労がわかった。
- ・子どもがおいしいというメニューのレシピがほしい。



栄養士の先生からのお話 … 1日の必要摂取量の3分の1を目標にしている。旬のものを使ったり、県産メニューで工夫をしているので、家庭では献立表を見ながら不足している食品群から食事の参考にさせていただけると、より良い食生活が目指せる。

第2回 しゃべり場 7月9日(木)

日頃、保護者会などの短い時間でしか交流がもてず、子育てにまつわる学校生活について充分に話し合う機会が持てるよう“しゃべり場”として学校の先生を交えたグループ別討論会なるものを企画している。ここでは、思春期の子どもを持つ親として、不安や戸惑いなどを気楽に話し合えるよう、先生方も保護者と交流を深めながら日常の雰囲気とは違った中で様々な話題で盛り上がる。

事前に校長先生からの講話があり、先生の子育ての経験談もうかがうことができた。



・校長先生の談話（3人の子育てより）

蚕（かいこ）はまゆ玉から脱出する時、まゆ玉の中から液を出し、溶かしながらどこが出やすいか、さぐってやっと見つけて脱出する。その時は苦しそうだが…その状況が子どもの思春期と似ている。苦しそうだから、まゆ玉をはさみで切って出しやすくして、蚕を出してみた。その蚕は脱出したとたんに息絶えた。

子育ては、じっと見守り、手助けをしてはいけない、ということとつながっている。子どもは3人いれば、三様の育て方をするのが大事である。どうなるものかと思心配したが、子ども達は3人三様で落ち着いている。親に感謝の気持ちは持っていないでしょう。（淋しいけど、そんなものです。）ただ、5時の門限と近所の方にあいさつをすることは厳しく言った。

子育ては自立するまで支えてやるのが親の役目。見返りを求めないのが、親の愛である。愛があっても見返りを求めると意味がない。（無償の愛）



第3回 薬膳料理の講習 7月18日(土)

講師 三戸泰子 先生（薬膳料理研究家・自然療法研究家）

自分や家族の食事のことを考え、健全な生活が送れるよう、薬膳料理について学習し、実際に調理し、試食する。

今回の薬膳メニューの目的は、血行を良くしてシミ防止になるといわれるものと夏バテで疲れた消化器官にやさしいもので、味も食べやすいものである。

【メニュー】

茄子とししとうのカニあんかけ
夏野菜のサンラータン



第4回 研修視察 10月28日(水)

添乗員・指導 産業観光エスコーター 壇部 様

小野田市食生活改善推進員協議会 岡田 様、三浦 様

コース	黒石中学校 → つねまつ菓子舗(伝助) → 西海食品 (山陽小野田市方面) → 帆万里(昼食) → 江汐公園ナチュラルグリーンパークホテル → 山口ワイナリー → 黒石中学校
-----	---

訪問する企業の衛生管理の徹底、製法へのこだわり、そして味の追求。生活に楽しみを与えてくれる食品業界が、人の命に直接関わるものとして、どのような努力をしているのか等を学べる研修である。宇部市の隣町、山陽小野田市で知っているようで知らなかった思わぬ食との出会いがあった。現場の方から、食品の製造工程を実際に見学しながらの学習であったが、各企業それぞれが自社の食材から製造、管理、味に至るまで、責任と誇りを持っており、どのようにして私達消費者にその誇りある食品を流通することができるかに日々努力されているのだと思った。

また、今回指導にあたってくださった宇部観光コンベンション協会から派遣された方々は、バスの移動の時には、常にこの身近な地域で学ぶことができる資源問題、環境問題、食の安心・安全、雇用、伝統技術の継承など、社会的に関心が高まっている事象についての普及をすすめられていた。

今回の研修では、食や企業に関して考える機会があったのと同時に、宇部市の中にも近隣にもまだまだ学ぶ所があることに気付かされた。



つねまつの看板食品である“せめんだる”やおはぎなど、中に使われているあんは、全部作り方が違う。あんで売ってほしいという希望もあるが、企業の核心的な部分なので、それはしていない。



1日2万枚もの天ぷら製品を作る。食品を入れてあるビニール袋は色付きで、製造日ごとに色分けされている。山口県、九州一円のセブンイレブンのおでんの具も扱う。常に新しい商品を心掛け、地産食材を使った天ぷらも販売される。



海に見える美しい和食処で、和会席料理をいただいた。日頃ただお腹を満たすだけの昼食とは違い、作る人の手間や食材のことを頭で考えながらの食事だった。



温室の無菌栽培の野菜などを見学した。結婚式場でもあるが婚約時に種を植え、結婚式当日にその実が料理になるそうだ。



第5回 3Bシェイプアップ体操 12月1日(火)

講師 藤本美砂 先生

体型、体調が気になる人のための体操である。ストレッチのように身体を伸ばしたり、ねじらせたり、音楽にのって踊るように動いたり、と終わった頃には本当に身体も心もスッキリとしている。精神的にも体操自体が急激な動きでないので時間がゆっくりと流れるように感じる。

日常の生活は、何かにせかされているかのごとく、時間に追われて、ゆっくりと物事を考える時を見過ごしがちだが、心掛けてこのような体操を取り入れることで、新しい心の発見につながるのかもしれない。



参加者は20名ほどである。音楽が流れてくると知らない人とでも自然に手を組んだり、グループを作ったりして体操が始まる。夜に開催されるセミナーだが、中には中学生の生徒も一緒に参加する人もいて、大変楽しそうな雰囲気である。

6 成果と課題

P T A活動が、一部の人に偏ってしまうことがないように、協力員を募る制度を設けたり、各行事ごとにお手伝いができる人を別に募集したりと多くの人々が色々な形で参加できるよう工夫をしているところである。

食をテーマにした今年度の研究主題である「生きる力の育成」という点では、一人で考え、成果を出すものではなく、人との交流で情報を交換する場があり、話し合い、徐々に経過を観察しながら、育むことができるものだと思う。その意味合いからも役員に限らず、P T A行事や地域主催の講演会などにより多くの人々が参加し、交流の場となることで、同じ目標を共有していくことができる。

今年度の親力UPセミナーは“食”に関する講座が中心で参加する人も多数であり、保護者同志のつながりを強めながら「楽しく学ぶことができた」という感想が多かった。これは題材が身近であり、参加しやすかったためだと思う。1年間を振り返ると食に対する意識は、折にふれて深まり、成果は確実に浸透しているものと思われる。

課題はやはりより多くの保護者に参加を促すことだろう。そして、取り組む課題が身近であればあるほど参加しやすいので、企画に工夫を凝らすのも必要である。また、P T A新聞などをおおいに活用し、情報を発信し続けることによって一人ではなく共に学ぶ意識を築いていくことができればと思う。